

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
乳児保育 I Baby Child Care I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修、教職課程必修 (幼稚園教諭二種))	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程必修科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育内容総論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高橋登美子	講義棟3階	火、水、金 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
3歳未満児の発育・発達について知り、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについてを学ぶ。乳児と過ごす豊かな時間の必要性に気付くことで、乳児保育とは何かを学ぶ。				
授業の目標				
①乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等についてを知ること、保育者として乳児と関わる態度を身に付けることができるようにする。 ②3歳未満児の発達と健やかな遊びについて考え、安全に配慮した乳児保育の計画を立てることができるようにする。 ③保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題と向き合い、乳児保育の適切な取り組みと態度を身に付けることができるようにする。				
授業の方法				
知識として必要な内容については講義を行う。赤ちゃん人形と触れ合いながらの授業も多く取り入れる。乳児の発達や遊びに向けた実習・体験・製作等に取り組む。				
学習の成果 (学習成果)				
「乳児保育」とは何かを、自分の言葉と取り組みで示すことができる。 乳児の発達と遊びの関係が分かることで、保育環境を整えることの意味を捉えた乳児保育計画を立てることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (シラバスの説明、赤ちゃんを「育てる」ということ、「保育をする」ということ、赤ちゃん人形に触れる)			
第2回目	「乳児保育」とはなにか～児童福祉法に基づく「乳児保育」について			
第3回目	映像教材「乳幼児の心理発達・その不思議」から「乳児保育」を学ぶ			
第4回目	乳児保育の一日①～「保育園の一日」とデイリープログラム			
第5回目	乳児保育の一日②～「乳児院の一日」とデイリープログラム			
第6回目	乳児保育の一日③～「家庭的保育の一日」とデイリープログラム			

第7回目	沐浴実習体験～赤ちゃんの着替え	
第8回目	乳児の発達と保育内容①～6ヶ月未満	
第9回目	乳児の発達と保育内容②～2歳まで《小麦粉粘土を作ってみよう》	
第10回目	保育教材の作成《ペグさし、ガラガラ》	
第11回目	身体機能の発達と保育①～ベビーマッサージ体験	
第12回目	身体機能の発達と保育②～なぐり描き期から図式期までを表現	
第13回目	身体機能の発達と保育③～手遊びの活用	
第14回目	「乳児保育」とはなにかを捉えるための筆記試験～演習活動の復習	
第15回目	乳児にとっての環境を考える～保育室、保育教材	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	50%	赤ちゃん人形と適切に関わることができる。(安全に抱っこ、おんぶができています。) 小麦粉粘土作り、保育教材製作への取り組みと片付けが出来ている。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	授業の目標に向けた「乳児保育」とは何かの設問に、授業内で示した適切な言葉と表現で記述することができる。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
「乳児の生活と保育」：ななみ書房		
履修上の留意点・ルール		
赤ちゃん人形の取り扱いには十分注意する。小麦粉粘土、保育教材製作時の材料は各自が用意する。使用教室の衛生・整備に心がける。演習活動に必要な準備の際は、積極的に準備に取り組む。		